

国語総合 問題用紙

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分が遊んでいるときの心理を振りかえってみても、他人の遊ぶすがたを外からながめても、遊びのなかで人は興奮した状態にある。みずから緊張状態を作りだそうとし、作りだされた緊張状態にみずから溶けこもうとしている。そういう気分の昂揚が遊びの基本要素の一つだ。そして、1気分の昂揚は完結した1世界を主体的に作りだす創造性と強く結びついている。

日常生活にすっかりとはめこまれた仕事や労働は、外からやってくるさまざまな強制や要請を受けいれざるをえず、また、作業そのものの要求する合理性や効率性に縛られて、自由な創造行為とははるかに遠いところにある。が、遊びはそうではない。日常生活を抜けだしている分だけ社会からの強制が働かないし、物を生産したりサービスを提供したり損得を計算したりする行為ではないから、合理性や効率性に縛られることも少ない。どうふるまうかは各自の自由な主体性にゆだねられている部分が多い。ということは、遊びがどう展開するかは不確定だというところで、遊びにおける気分の昂揚は、不確定の状況に身を置く不安と、自他の創意と工夫によって不確定を確定へともたらす主体性の発現とがからまり合って生みだされるのだ。もともと気分の昂揚が予想され期待され、その予想と期待に応じるように気分が昂揚すると、遊びの世界は日常生活とはちがう華やかさを帯びてくる。それが遊びの楽しさだ。

2そうした楽しさは遊ぶ人びとの気分の昂揚によってもたらされたものだが、気分の昂揚がひたすら感情的に追求されると、遊びは無秩序な乱痴気騒ぎになって、それでは楽しみが持続しない。遊びは一回ごとに完結するもので、いつまでも楽しさが持続することはないが、一回の遊びの時間内では楽しさが持続するのが望ましい。遊びに、それなりのルールや作法や仕掛けや段取りが存在するのは、楽しみの持続を願う多くの人びとの、無意識の、あるいは意識的な、知恵のたまものなのだ。ルールや作法や仕掛けや段取りは、なによりも、遊びを楽しいものにするためのものだ。

その点で、3遊びのうちにある秩序は4仕事の秩序とは質を異にする。

仕事の秩序は合理性と効率性を基本とする秩序だ。どれだけ短い時間に、どれだけ人手を少なくして、どれだけ多くの物を作るか。どの部署に、どんな人物を、どんな規模で配置するか。外からの注文や要望や苦情にだれが、どう対応し、内部の動きにそれをどう反映させるか。……そういった配慮のもとに仕事の秩序——部署の（A）、責任の（B）、人員の（C）、生産の（D）、労務管理、支社との（E）、関連会社との協力体制、等々、——が組み立てられ、情勢の変化に応じて秩序はさまざまに手直しされる。組み立てにも手直しにも合理性と効率性への配慮が欠かせない。

そこが遊びの秩序は決定的にちがう。合理性と効率性への配慮はゼロではないが、それが秩序の基本ではない。どう気分を昂揚させ、興奮の波を作るか。いいかえれば、どう遊びを楽しくするか。そうした配慮が秩序の——ルールや作法や仕掛けや段取りなどの——基本だ。前の遊びとつながらなくてもよい。遊びの始まる前にあった出来事ともつながらなくてよい。遊びの後に来る出来事ともつながらなくていいし、後続の遊びともつながらなくてよい。遊びが始まって終わるまでの流れが、緊張と弛緩、動と静、リズムとハーモニーを備えた充実した時間をなし、そこで楽しい気分の昂揚が味わえることがなにより大切なのだ。遊びの秩序は、まずもって、そういう充実と楽しさを作りだし維持するためにある。秩序の作りかたという点から見ても、遊びは、衣食住という暮らしの土台からはやや浮いたところにあり、生活の直接の必要や、生活に直接に役立つ有用性や有益性を、逸脱しているからこそ、楽しみを純粹にそれとして追求することが可能なのだ。

（長谷川宏『高校生のための哲学入門』による）

問1 二重傍線部 a ~ c の漢字の読みを平仮名で答えなさい。

問2 傍線部1「気分高昂は完結した一世界を主体的に作り出す創造性と強く結びついている」とあるが、このように考える理由を述べている一文を本文中から探し、初めの五字を抜き出さない(カギ括弧、句読点も字数に含める)。

問3 傍線部2「そうした楽しさ」とはどのようなものか。二十五字以内で説明しなさい(カギ括弧、句読点は字数に含めない)。

問4 傍線部3「遊びのうちにある秩序」と傍線部4「仕事の秩序」の違いは何か。本文中の語句を用いて五十字以内で説明しなさい(カギ括弧、句読点も字数に含める)。

問5 空欄 A ~ E に入る適当な語句を次のア ~ オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア、規模 イ、連携 ウ、設置 エ、配置 オ、分担

問6 傍線部5「興奮の波を作るか」に用いられている表現技法として適当なものを次のア ~ オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、直喩 イ、隠喩 ウ、擬人法 エ、倒置法 オ、反語法

問7 次のア ~ オのうち、本文の内容と合致するものには○、合致しないものには×をそれぞれ記しなさい。
ア、遊びによって興奮した状態になると、人は普段の生活よりも主体的に行動できるようになる。
イ、仕事では創造性より合理性や効率性が優先されるため、それらに配慮した秩序が必要になる。
ウ、遊びの世界は、日常世界と異なる興奮状態が常に続くことにより、一段と楽しいものになる。
エ、遊びの楽しさは、日常生活における緊張状態から解放されることにより生じるものである。
オ、日常生活から切り離されることによって生じる完結性が、遊びをより楽しくする要素である。

【二】 次の① ~ ⑤の片仮名の語を漢字で書きなさい。

① ハイオンな日々を送る。

② 目をコらして間違いを探す。

③ 作文をテンサクする。

④ 教室をセイソウする。

⑤ 書類をフンシツする。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

意識とことばの関係は、(A)と(B)との関係にたとえられるのではないかと思う。「ことばの道具性」というと、普通はことばをたんなるコミュニケーションのための無色の道具ととらえるように思われがちだが、ここでいいたいのは、道具は延長した身体という側面をもつということである。

わたしたちは、熟練した職人や卓越した演奏家が道具と楽器を思いのままにあやつるすがたをみて賞賛する。しかし、職人や演奏家自身は、その道具と楽器の存在をほとんど意識していないのではないだろうか。つぎにどの指をどの方向に動かすかを意識したとたん、動きはぎこちなくなってしまうだろう。このとき道具と楽器は「人間の身体の延長として身体性を獲得しているのである。鉛筆で文字を書いているとき、わたしたちの意識は紙の上の文字にあり、鉛筆のものにはない。しかし、鉛筆の先端は、わたしたちの身体と紙という外界の接触点になっている。目の不自由な人が杖で道路をたたくとき、その杖は手の延長となって、感覚器官としての働きをはたしているのではないだろうか。

ことばにもこれに似たところがある。ことばが身体の延長であるかぎり、それは外的物体としても内的心理としても意識されない。(C)、「身体性」ということばでなにかわかつた気になって、安心してはならない。それこそことばの落とし穴に落ちこむことになる。(D)、「わたしたちがそもそもことばを話すようになるのは、ことばを身体化——内面化ではない——しているからであることは、疑いのない事実であろう。くりかえすが、わたしたちは自分がなにをいうか相手がなにをいおうとしているかに注意を集中するのであって、ことばそのものを意識しているのではない。そのときことばは後景にしりぞいている。(E)、「外国語の文法書は、けっして身体化することのできないことばの残骸ざんがいのようなところがある。外国語はことばそのものの存在を否応いやおうなくわたしたちに意識させる。

「身体の延長としての()道具としての()ことば」と「装置としての()ことば」とのちがいは、この身体性の「介在」があるかどうかによって区別できるのであろう。「装置」はわたしたちがけっして身体化できない外部の力でありつづける。道具はわたしたちを解放するが、装置はわたしたちを拘束する。もちろん、この区別は(X)であるし、歴史的でもある。しかし、区別が(X)であることは、区別ができないということではないだろう。わたしたちはなんらかのやりかたで、わたしたちに自由をあたえてくれることばとわたしたちを拘束することばとのちがいを感ずる。

(イ・ヨンスク『「ことば」という幻影』による)

問1 二重傍線部 a、c の漢字の読みを平仮名で答えなさい。

問2 空欄 A、B に入る適当な語句を本文中から探し、それぞれ漢字二字で抜き出しなさい。

問3 傍線部 1 「人間の身体の延長として身体性を獲得している」とはどのような状態のことか。本文中の語句を用いて三十文字以内で説明しなさい(カギ括弧、句読点も字数に含める)。

問4 空欄 C、D、E に入る適当な語句を次のア、オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、しかし イ、つまり ウ、それに対して エ、たとえば オ、もちろん

問5 空欄 X に入る適当な語句を次のア、カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、絶対的 イ、相対的 ウ、抽象的 エ、具体的 オ、一時的 カ、恒常的

令和4年度 英語

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

1. 次の英文を読み、設問に答えなさい。(配点 50点)

The buildings in our lives are much more than piles of stones and piles of bricks. The bridges we cross, homes we inhabit, and offices we work in are also expressions of our cultures. Perhaps more than any other type of structure, a city's landmarks are its most visible symbols. From the Eiffel Tower in Paris to the Space Needle in Seattle, our landmarks stand for our achievements and shared identities.

Famous landmarks create powerful images that are emblems of cities and countries. The Taj Mahal, in addition (1) being an architectural masterpiece, is India's best-known symbol. Likewise, millions of visitors to London send postcards featuring images of Big Ben. These (A) treasures often have a functional use, making them living parts of a city. The White House in Washington, D.C., is still the U.S. president's home. Every day, millions cross bridges like San Francisco's Golden Gate. Even after their functional periods are over, many landmarks, like the Coliseum in Rome, are preserved as ties to a city's past.

Buildings are also expressions of local (B). For centuries, architects have pushed upwards and upwards, starting with wood, then stone, and eventually steel in a race to build the highest skyscraper: for example, New York's Empire State Building (443 meters), Taipei's 101 Building (508 meters) or Dubai's Burj Khalifa (828 meters). Yet these landmarks are much more than mere measurements. They have a powerful impact (2) tourism and local businesses, and they can even help revitalize a city.

The design, shape, and style of these buildings often evoke the spirit of the local culture. For instance, Taipei's 101 Building, a characteristically modern (C), has a unique design patterned after traditional Buddhist temples. Older structures like Kyoto's Golden Pavilion are beautiful examples of (D) architecture.

Local residents and international visitors are (E) to these monuments to the human spirit. Whether they're brand-new or 2,000 years old, made (3) stone or steel, or used to work or worship in, the buildings in our lives contain the blueprints of our cultures.

Coliseum: コロシウム、大競技場 Golden Pavilion: 金閣寺 brand-new: 真新しい
blueprints: 青写真、(詳細な)計画

問 1. 本文中の空白(1)～(3)に入る最も適切な単語を下記の中から選び、その記号を書きなさい。

A. from B. of C. to D. with E. at F. on

- 問 2. 下線部(a)～(c)と同義の語句を選び、その数字を書きなさい。
- (a) 1. attend 2. represent 3. recognize 4. find
(b) 1. destroyed 2. explained 3. maintained 4. asked
(c) 1. make strong again 2. make weak again 3. damage again 4. show again
- 問 3. 本文中の空白(A)には culture の形容詞形、空白(B)には proud の名詞形、空白(D)には religion の形容詞形が入る。それぞれの語を英語で書きなさい。
- 問 4. 本文中の空白(C)には「摩天楼」を意味する単語が入る。本文中からその語を探し、英語で書きなさい。
- 問 5. 本文中の空白(E)には、draw の過去分詞形が入る。その語を英語で書きなさい。
- 問 6. 本文中では、パリとロンドンの象徴的な建造物が一つずつ挙げられている。それらを英語で書きなさい。
- 問 7. 次の文について、本文の内容と一致するものには○、一致しないものには×を付けなさい。
- ア. タージマハルはインドの代表的な建造物である。
イ. ホワイトハウスは大統領の住居にはなっていない。
ウ. それぞれの地域の建造物にはその地域の文化との関わりはない。

2. 次の各組の見出しの単語の下線部と発音が同じものをア～エから1つ選びなさい。(配点 10点)

- A. height ア hate イ fight ウ late エ weight
B. length ア thought イ though ウ worthy エ southern
C. double ア doubt イ dumb ウ humble エ debt
D. choice ア epoch イ chemist ウ anchor エ cherry
E. breakfast ア break イ headache ウ deck エ cake

3. 次のA～Eの各語の中に、最も強く発音する音節の位置が他と異なる語がそれぞれ1つある。その語の数字を書きなさい。(配点 10点)

- A. 1. at-mo-sphere 2. sci-en-tif-ic 3. con-se-quence 4. en-er-gy
B. 1. dis-trib-ute 2. rep-re-sent 3. cu-ri-os-i-ty 4. en-gi-neer

- C. 1. oc-cur-rence 2. ge-om-e-try 3. in-flu-ence 4. re-li-gion
D. 1. mys-te-ri-ous 2. in-stru-ment 3. mo-not-o-nous 4. de-moc-ra-cy
E. 1. dip-lo-mat-ic 2. op-por-tu-ni-ty 3. il-lus-tra-tion 4. op-po-site

- c. I'll take your temperature.
d. I have an appointment to see Dr. Lee.
e. How do you feel today?

4. 次の各文の () に入る最も適切な語句を 1 ~ 4 から選び、その数字を書きなさい。(配点 15 点)

- A. Thank you for () me to your birthday party, John.
1. invited 2. invite 3. inviting 4. to invite
B. Your parents took care of you, and now it's your () to take care of them.
1. watch 2. tune 3. order 4. turn
C. I think you need a rest. () don't you take a day off?
1. Why 2. How 3. Where 4. When
D. This is the house () I used to live when I was young.
1. which 2. where 3. how 4. whom
E. I asked them () any noise.
1. don't 2. make not 3. to not make 4. not to make

5. 次の 2 つの A と B の会話で、文中の空所 (1) ~ (5) に入る最も適切な文を下段の英文から選び (1 回のみ)、その記号を書きなさい。(配点 15 点)

(1) A: Hello. May I help you?

B: Yes. (1)

A: Dr. Lee in the rehabilitation department?

B: Yes.

A: (2)

B: Yes. I made an appointment for nine o'clock.

(2) A: Good afternoon, Mr. Smith. (3)

B: I'm not feeling very well. (4)

A: You might have caught a cold. (5)

B: Thanks.

a. I have a terrible headache.

b. Excuse me, but is this your first visit?